

加古川平成ロータリークラブ
 会長 網本 徹也
 幹事 鳥井 俊介
 広報小委員長 原田 悟徳
 2680 地区ガバナー 矢坂 誠徳

例会日／毎水曜日 18:00～19:00・例会場／加古川商工会議所会館
 事務局／加古川市加古川町溝之口 800 加古川商工会議所会館
 Tel. 079-422-8000 FAX. 079-422-8100
 ホームページ <http://k-heisei-rc-com> / Eメール heiseiro@basil.ocn.ne.jp

持続可能な
インパクトを
生み出そう



2026～2027 年度 RI 会長 オンラインカ・ハキーム・パバロラ

No. 1630 July 15、2026

例会プログラム

第3回(7月 15日)

「クラブ管理運営委員会」

榊 誠会長エレクト

例会当番 岡田

次週例会プログラム

(7月 29日)

「尼崎西RCとの合同納涼例会」

於 ; URBAN EARTH BBQ 神戸阪急店

次週例会当番 榊

前週例会報告

◇ ゲスト

◇ ビジター

◇ 出席率 先週 会員数 17名 出席数 10名 出席免除 2名 欠席数 5名
 先々週 会員数 17名 出席数 12名 出席免除 2名 欠席数 3名

◇ 欠席者 5名 井上 岡田 柴田 鈴木 松野

◇ メークアップ 2026年6月25日 感謝の集い 榊
 2026年7月4日 第1回ロータリー財団合同委員会 榊



★ 網本会長

★ 鳥井幹事

★ クラブ協議会

RIテーマ 持続可能なインパクトを生み出そう

本日の幹事報告

※ 例会欠席の時は必ず事前に事務局へ連絡！

① 各RC例会変更のお知らせ

明石RC 10月14日(水)→休会 定款第7条第1節dにより】

10月28日(水)→10月31日(土) 月見例会

加古川RC 8月4日((火))→8月1日(土)午後6時～納涼例会 於；大蔵海岸 BBQ ZAZAZA

8月11日(火)→例会取りやめ〔定款第7条第1節(d)〕

9月22日(火)→例会取りやめ〔定款第7条第1節(d)〕

② 回覧します

・地区より、「ストーリーテリングキャンペーン開催のご案内とご協力をお願い」

③ Boxに前期会費請求書(8月末までに納入)、加古川RC、加古川中央RC、加古川平成RCの名簿を入れています。

④ 次週22日(水)の例会は、例会取消〔定款第7条第1節(d)〕となっております。お間違いのないようお願いいたします。また、次々週29日(水)はURBAN EARTH BBQ 神戸阪急店に於いて、尼崎西RCとの合同納涼例会となっております。ご参加の方は時間厳守をお願いいたします。本日より受付で会費の集金をいたします。

SONG TODAY

奉仕の理想

作詞；前田和一郎 作曲；萩原英一

奉仕の理想に集いし友よ

御国に捧げん我等の業^{なりわい}

望むは世界の久遠の平和

めぐる歯車いや輝きて

とわ^{とわ}永久に栄えよ

我等のロータリー ロータリー



ロータリーのイニシアチブで遠隔地の助産師を支援

妊産婦の命と健康を守るため、ロータリー会員たちは助産師のスキル養成とネットワークづくりを後押ししています

by Hannah Shaw

017月 2026

現在、主に低・中所得国で、毎日およそ 830 人の女性と 7,000 人の新生児が、妊娠や出産に関連する合併症で命を落としています。これらの死亡のほとんどは予防できるものであり、その鍵を握るのが助産師たちです。ロータリー会員が中心となった取り組みにより、パプアニューギニアとオーストラリアで、助産師たちによる重要な仕事への支援が行われています。

世界保健機関（WHO）によると、世界の助産師数をわずか 10%増やすだけで、年間最大 130 万人の命を救うことができます。

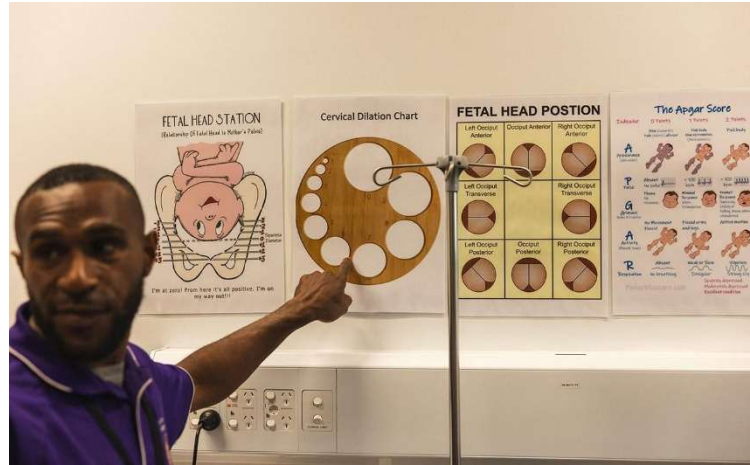
ロータリークラブは、リーダーシップスキルやアドボカシーに関する研修を通じてこのニーズに応えています。クラブは、オーストラリアおよびパプアニューギニアの助産師会と連携し、「パプアニューギニア助産師リーダーシップ・バディ・プロジェクト」を立ち上げました。2025 年 4 月現在、パプアニューギニアの助産師 52 人と、オーストラリアの助産師 31 人がこのプログラムでスキルを高めました。



「パプアニューギニア助産師リーダーシップ・バディ・プロジェクト」のワークショップ中、プロジェクトのファシリテーターである助産師ジュリー・ケップさん（右）がポートモレスビー総合病院にてトレア・トレさんと対話。助産師の仕事は出産の介助だけにとどまらず、ある地域では性と生殖、母子保健、思春期保健などの重要な医療サー

ビスの約 9 割を担っています。

パプアニューギニアの遠隔地域で活動する助産師サイモン・ジェームズ・コパルタさんが、プロジェクト第5期生として「パプアニューギニア助産師リーダーシップ・バディ・プロジェクト」に参加。ポートモレスビーの医療施設を巡るツアーでは、地域プロジェクトのヒントを得ています。臨床現場では、このような掲示を通じて手順を可視化することが命を守る手助けになります。



このプログラムの核は「協力」にあります。オーストラリアとパプアニューギニアの助産師がペアを組み、5日間のスキル研修を受けた後、パプアニューギニアの助産師たちが主導する1年間の地域医療プロジェクトを実施。オーストラリア側は、その間も継続的に支援を提供します。

このプロジェクトの実施を指揮した元助産師のジュディス・ブ

ラウンさん（オーストラリア、モリアルタ・ロータリークラブ元会長）は、「この交流は互いに学び合う双方向の関係」と話します。互いの文化を理解しながら、専門的スキルも磨かれる一方で、最も大切なのは「両国の女性たちが自分の声を持てるようになること」だと彼女は語ります。

プロジェクトを実施したジュディス・ブラウンさん（左）（オーストラリア、モリアルタ・ロータリークラブ会員）と、パプアニューギニア助産師会の会長メアリー・シタイングさん。2人は6年間にわたり、このワークショップの運営で協力してきました。

パプアニューギニア助産師リーダーシップ・バディ・プロジェクトのセッションをリードするヘレン・ホールさん。ホールさんは、オーストラリア助産師協会を通じてこのプロジェクトに関わったことをきっかけに、ローズバッド・ライ・ロータリークラブ（オーストラリア）に入会。「ロータリーの仲間は、私が一緒に過ごしたいと思える人たち。地域、国内、世界に目を向け、自分の力をどう生かせるかを常に考えているんです」と語ります。



この協力体制は、医療機器の提供から10代の妊娠問題への対応まで、さまざまな形で成果を上げてきました。そして何よりも大きな成果は、命を救うことに情熱を注ぐ助産師たちの間に築かれた、深く永続的なつながりです。